# 立佞武多（たちねぷた）

## TACHINEPUTA

**ビル七階建てに匹敵する高さ約23メートル、重さ約19トンの偉容。百年の時を経て五所川原の歴史が街を練り歩く。**

## 「眠り流し」民俗が巨大化した奥津軽の祭礼。

### 明治時代からのメッセージ

巨大な五所川原立佞武多が記録に登場するのは、明治40年頃と言われており、当時の豪商、大地主の富の象徴として、高さを誇るようになり、約10～12間（約18～21・6メートル）に及ぶようになりました。その勇姿は、近隣の町村からも見えたと言われるほど巨大なものでした。

しかし、大正時代になり電線が通りを横切ることにより、ねぷたは小型化の一途をたどり、また、戦後に起きた2度の大火で街が全焼したことにより、設計図や写真が消失し、〝巨大ねぷた〟は姿を消しました。

復活の発端となったのは、平成5年に発見された明治・大正のものと見られる巨大ねぷたの台座の設計図。設計図には年代は記されていませんでしたが、明治・大正期の巨大ねぷたのものと推察されました。

明治後期の巨大ねぷたの写真

### 巨大ねぷた復活へ。立佞武多と命名

平成8年、約80年ぶりに苦難の復元が始動。その巨大ねぷたは「立佞武多」と命名されました。復元の場は岩木川河川敷、復活の〝初陣〟は、ねぷたの起源「眠り流し」の民俗行事に因んで旧暦の七夕の時期に合わせられました。

そして7月3日午後8時、約1世紀ぶりに新しい歴史を刻むことになる立佞武多「武者」に点灯。宵に威風が浮かび上がり、囃子が空気を震わすなかでの400メートルの運行。その威風は喝采と感動を呼びました。7日には、古習に倣い火が放たれ、立佞武多を昇天。その幻想的景観は止めどない感涙を呼びました。

立佞武多を復活させた有志たち

### 「五所川原立佞武多」まつり開幕

〝巨大ねぷた復活〟から2年後の平成10年。立佞武多が市街を練り歩く準備が始まり、道を横切る電線等を埋設するインフラなどの整備が急ピッチに行われました。

同年8月5日、恒例の〝ねぷた祭り〟において、およそ7階建てのビルに相当する高さ22メートル、総重量16トンの立佞武多「親子の旅立ち」が、約30人の若者に曳かれ、闇にその偉容を浮かび上がらせました。その数分後、市民や観光客が運行コースに詰めかけ、立佞武多が立ち往生する場面もあったほど混沌とした興奮に包まれました。

「親子の旅立ち」

平成11年より年ごとに新作の大型立佞武多が製作されています。祭りの名称も「五所川原立佞武多」となり、現在では新作1台を加えた3台の大型立佞武多の他、町内会や高校、有志の団体が製作する大小様々な立佞武多や組ねぷたが運行されます。〝ヤッテマレ！〟の力強い掛け声とともに五所川原の夜を熱くします。

「暫（しばらく）」

### 巨大な偉容が眼前に、「立佞武多の館」

祭り本番に出陣する大型の立佞武多3台を展示しています。らせん状のスロープを下りながら観覧できるので、巨大なねぷたを間近でじっくり眺められます。製作途中の立佞武多見学はもちろん、展望ラウンジからの景色もお楽しみください。

立佞武多の館で展示される大型立佞武多

### 五所川原花火大会

約70年の歴史を誇ります。現在は立佞武多まつりの前夜祭として行われ、噴水や照明、BGMに合わせて約5千発のスターマイン（連続花火）が打ち上げられます。フィナーレには幅80メートルのウォーターカーテンがライトアップされ、花火とともに夜空を彩ります。

**五所川原花火大会**
- ●期日／8月3日 ●時間／19:20～
- ●有料観覧席有り（要問合）
- ●場所／岩木川河川敷
- ●交通／JR五所川原駅より徒歩約10分
- ●問／五所川原商工会議所 ☎0173-35-2121
- ●地図／P17：B-1

**立佞武多の館**
- ●開館／9:00～19:00（4月～9月） 9:00～17:00（10月～翌3月）、9:00～21:00（8月4日～8日）、9:00～15:00（12月31日）
- ●休館／1月1日（営業の場合有。要問合）
- ●入館料／立佞武多展示室一般650円
- ●交通／JR五所川原駅より徒歩約5分
- ●問／☎0173-38-3232 ●地図／P17：C-2

**五所川原立佞武多まつり**
- ●期間／8月4日～8日 ●時間／19:00～21:00 ●場所／五所川原市中心市街地 ●料金／有料観覧席3,000円～（要申込） ●交通／JR五所川原駅より徒歩約3分 ●問／五所川原市観光協会☎0173-38-1515

※有料観覧席については、五所川原商工会議所☎0173-35-2121、まちなか五所川原☎0173-33-6338

**祭り期間は、臨時駐車場をご利用頂けます。（P16・17参照）**